

平成25年度 事業報告書

※ 法人の概要

※ 事業の概要

※ 財務の概要

学校法人 朴沢学園

法人の概要

○ 建学の精神・教育目標について

本学校法人の建学の精神は「実学と創意工夫」であります。
そして、「心身ともに健康な人間の形成」ということを、設置する仙台大学・明成高校
共通の教育目標としております。

平成26年3月、仙台大学は、公益財団法人日本高等教育評価機構の機関別認証評価
において機構が定める大学評価基準を満たし「適合」の判定を得ました。
評価結果報告書では、「改善を要する点」は公表・非公表を問わず皆無であり、公表を
要する「参考意見」は「基準2 学修と教授」の「2-1 学生の受入れ」において、
「体育学科の収容定員に対する在籍者数の超過への改善計画を確実に進めることが望
まれる」、また「2-8 教員の配置・職能開発等」において、「教養教育の運営責任体
制を明確にするとともに、組織上の整備が望まれる」の2点のみでありました。

○ 設置する学校・学部・学科等について

設置する学校	開校年月	学部・学科等
仙台大学 (所在地) 宮城県柴田町	昭和42年4月	体育学部 体育学科 健康福祉学科 運動栄養学科 スポーツ情報マスメディア学科 現代武道学科 大学院 スポーツ科学研究科
明成高等学校 (所在地) 仙台市青葉区	昭和26年4月	普通科(全日制) 調理科(全日制) 介護福祉科(全日制)

○ 設置する学校の入学・収容定員、入学者・在籍者数

仙台大学

(平成25年5月1日現在)

		入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
体育学部	体育学科	250	336	1,000	1,369
	健康福祉学科	100	119	400	439
	運動栄養学科	80	84	300	330
	スポーツ情報マスメディア学科	40	45	160	171
	現代武道学科	30	29	90	102
	学部計(編入学を除く)	500	613	1,950	2,411
	学部編入学	48	12	86	21
	学部合計	548	625	2,026	2,432
大学院スポーツ科学研究科		23	31	46	53
合計		571	656	2,072	2,485

明成高校

(平成25年5月1日現在)

		入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
普通科		240	264	720	633
調理科		120	118	360	293
介護福祉科		80	40	240	116
合計		440	422	1,320	1,042

(註) 平成25年度募集定員は400名

募集定員400名ベースの平成25年度収容定員は1280名

法人全体

(平成25年5月1日現在)

		入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
法人全体		1,011	1,078	3,392	3,527

(註) 高校募集定員400名ベースの

平成25年度入学定員は 971名

平成25年度収容定員は3,352名

○ 学校法人の沿革

明治12年(1879年)	1月	創設者初代朴澤三代治 仙台市に松操私塾を開設
明治17年(1884年)	4月	私立松操学校に校名を改称 米国教育博覧会に雛形など一斉授業法の裁縫教材を出展
大正15年(1926年)	3月	実業学校令に基づき師範科増設
昭和2年(1927年)		宮城県より師範科卒業生に対し小学校裁縫専科正教員無試験検定認定校として許可を受ける
昭和6年(1931年)	10月	朴沢松操女学校に校名を改称し高等師範科増設
昭和12年(1937年)	7月	財団法人朴沢松操女学園設立(財団法人化) 文部省より高等師範科卒業生に対し裁縫科中等教員無試験検定認定校として許可を受ける
昭和23年(1948年)	4月	学制改革に伴い朴沢女子高等学校(全日制)に校名を改称
昭和26年(1951年)	3月	私立学校法制定に伴い学校法人朴沢松操女学園を設立
昭和42年(1967年)	3月	学校法人朴沢学園に法人名を改称
昭和42年(1967年)	4月	仙台大学を開設(体育学部体育学科)
昭和47年(1972年)	4月	朴沢女子高等学校に調理科開設(昭和50年食物科に改称) 調理科に厚生省調理師養成施設併設
昭和49年(1974年)	7月	朴沢女子高等学校が仙台市青葉区川平に移転
昭和54年(1979年)	10月	学校法人朴沢学園創立100周年記念式典を挙行
平成4年(1992年)	4月	朴沢女子高等学校を明成高等学校に校名を改称
平成7年(1995年)	4月	仙台大学体育学部健康福祉学科を開設 健康福祉学科に厚生省介護福祉士養成施設を併設
平成8年(1996年)	4月	明成高等学校食物科を調理科に改称・男女共学化
平成10年(1998年)	4月	仙台大学大学院スポーツ科学研究科(修士課程)開設
平成11年(1999年)	1月	学校法人朴沢学園が河北文化賞を受賞
平成11年(1999年)	11月	学校法人朴沢学園創立120周年記念式典を挙行
平成14年(2002年)	4月	明成高等学校普通科を男女共学化
平成15年(2003年)	4月	仙台大学体育学部運動栄養学科を開設 運動栄養学科に厚労省栄養士養成施設を併設
平成18年(2006年)	12月	仙台大学・明星大学通信教育学部間で小学校教員養成に関する教育業務提携を開始
平成19年(2007年)	4月	仙台大学体育学部スポーツ情報マスメディア学科を開設

平成20年(2008年)	3月	仙台大学が財団法人日本高等教育評価機構より機関別認証評価の認定を受ける (平成26年度末まで)
平成20年(2008年)	4月	仙台大学体育学部にスポーツ情報マスメディア研究所を設置
平成21年(2009年)	4月	仙台大学大学院に修士課程1年コース設置
平成21年(2009年)	4月	明成高等学校に介護福祉科を設置
平成23年(2011年)	4月	仙台大学体育学部に現代武道学科を開設
平成23年(2011年)	7月	学校法人朴沢学園教育歴史資料が仙台市有形文化財として指定を受ける
平成24年(2012年)	1月	明成高等学校調理科リエゾン・キッチン活動が河北文化賞を受賞
平成26年(2014年)	3月	仙台大学が公益財団法人日本高等教育評価機構より機関別認証評価の認定を受ける

○ 理事・評議員・監事について

(平成25年7月1日現在)

理事会・評議員会 開催状況

理事会 年4回開催

評議員会 年3回開催

	寄附行為上の人数	実員数
理事	14名以内	12名
評議員	29名以内	28名
監事	2名	2名

就任者の状況

(平成25年7月1日現在)

	氏名	選任区分	勤務	兼職名
理事 (14名 以内)	朴澤 泰治	1号	常勤	理事長・仙台大学長
	佐藤 宏	3号	常勤	専務理事
	藤田 努	3号	常勤	常務理事(総務)・法人事務局長
	齋 泰幸	3号	常勤	常務理事(財務)
	櫻井 俊夫	2号	常勤	理事(高大連携)
	佐々木 稲生	1号	常勤	明成高等学校長
	鈴木 三雄	2号	非常勤	前常務理事
	吉田 昌一	3号	非常勤	元宮城県中学校長会長
	久道 茂	3号	非常勤	(財)宮城県対がん協会会長
	阿部 芳吉	3号	非常勤	仙台大学副学長
	向井 正剛	3号	非常勤	仙台大学名誉学長
滝口 茂	3号	非常勤	柴田町長	

評議員

1号 阿部 芳吉 橋本 実 土生 英則 海和 由美子
2号 鈴木 省三 松下 邦雄 園部 禮子 二瓶 たけ子
3号 朴澤 泰治 藤田 努 向井 正剛 佐藤 宏
4号 佐々木 稻生 長田 達雄 櫻井 俊夫 杉本 輝昭
田中正人 齋藤 進 鈴木 三雄 阿部 佑
佐藤 佑 加藤 武司 齋 泰幸 吉田 龍哉
吉田 俊司 高橋 武彦 大平 文 佐藤 弘光

外部監事(非常勤)

岩崎 悌二 恵美 文雄

○教職員について

(平成25年5月1日現在)

	教 員		新助手	職 員
	専 任	非 常 勤	常 勤	常 勤
法 人	—	—	—	7
大 学	97	93	25	57
高 校	56	31	—	17
合 計	153	124	25	81

事業の概要

(主な事業の目的・計画、計画の進捗状況など)

○ 短期的課題としての川平地区の高校グラウンドなど整備事業

東日本大震災の発生後、平成24年5月に高校グラウンド擁壁の一部が再度崩落し、平成23年度激甚災害指定期間終了後の事案の発生ということで、本学校法人の全額負担による復旧対応となったところから、東北大学大学院の専門家に原因調査・対応策検討を依頼した結果、擁壁より高位置にある土砂の除去が根本的な解決策となることが判明しましたため、高校敷地北側の法人管轄地を高校グラウンド代替地とし、併せて仙台大学のスポーツ科学諸施設として整備することとしました。平成25年9月に、ベガルタ仙台レディースと明成高校女子サッカー部との記念試合、仙台大学陸上競技部クリニックや同アスレティックトレーナー部および運動栄養サポート研究会による実演指導その他、柿落とし行事を実施し、年度内に整備が完了しました。整備概要は次のとおりです。

- * 法人管轄地 大学・高校・地域共用型のサッカー場・陸上トラック・多目的グラウンド
総面積 34,052㎡ (仙台大学校地分 22,350㎡・明成高校校地分 11,702㎡)



(法人管轄地)



(旧高校グラウンド)

新グラウンドの名称については、広く公募した結果51点の応募があり、学園設置の大学・高校の校名から「明仙」(明成高校から仙台大学への特別推薦入学の制度化を踏まえ進学生の保護者等が命名したもので、既に隣接の「明仙バスケ・ラボ」で使用)、グラウンドや付帯施設を総称とした「フィールド」、そして所在地を表す「川平」を組み合わせたとし、「明仙フィールド川平(MSFK)」に決定しました。

- * 旧高校グラウンド グラウンド削土・スクールバス乗降駐車場・食育栽培地
削土掘削量 18,540 m³(搬出先 仙台市青葉区芋沢塩野沢みやぎ台団地付近)

将来的には高校校舎建替代替地などの利用を想定し、それまでの間は、スクールバス乗降駐車場の他、平成26年度開催の第24回全国産業教育フェア2014宮城大会、および平成27年度全国高等学校長協会家庭部会（食物調理科）校長等研究大会が明成高校を主管校として開催されることから、これに対応すべく河北文化賞受賞対象のリエゾン・キッチン活動紹介の一環として仙台白菜、仙台味噌素材その他食材栽培地としての活用などを予定しております。

- * 仙台大学スポーツ健康科学研究実践機構第二分室の整備

明仙フィールド川平（MSFK）を利用するにあたり、更衣室・トイレその他の付帯施設、また、仙台大学の教育研究資源を活かしたアスレティック・トレーニングルーム機能を付加したクラブハウスを仙台大学スポーツ健康科学研究実践機構分室に併設の第二分室として整備しました。（構造 軽量鉄骨プレハブ造り一部2階建て、延床面積は362.82 m²）

なお、年度末には、計画的に増員したアスレティック・トレーニング分野の教員等による次年度以降の地域スポーツ愛好家・高校生・大学生を対象とした船岡・川平一体型の当該分野の普及・進展について、仙台大学・明成高校の各種競技指導者との情報交換を行いました。

○ 中期的構想としての明成高等学校経営改善計画の遂行について

入学定員未充足および教員人件費高負担が経営悪化要因となっている高校部門について、私立学校運営費補助事業に基づき、平成23年度、公認会計士意見聴取・ホームページ公開・教職員に対する説明その他所要手続を経て獲得した県当局からの事業採択承認のもと、策定した「経営改善計画」の採択第3年度に当たっておりましたが、事業開始直前の東日本大震災発生により、初年度から、内容の再検討を実施せざるを得ない状況となっております。

採択第3年度も震災復旧・復興、とりわけ川平地区のグラウンド問題が浮上し、財政面ではさらに計画係数など所要事項の改定が必要となっております。幸い、高校入学者実績が予想より上回るどころとなり、募集定員の縮小については、実施時期を1年間繰り下げることにしました。財務的には、累積3年間の計画値と実績値とを比較すると、帰属収入では、学納金収入は約2億円の計画未達となる一方、約3.5億円の計画外補助金増などがあり、総計で約2.3億円の計画超過となっているにも拘らず、消費支出も約2.7億円の支出増となり、帰属収支差額は、約0.4億円の計画未達となっております。

○ 中期的構想としての仙台大学の経営規模に関する計画について

単一学部形態の大学において経営安定化の一つのメルクマールとされる入学定員500名、収容定員2,000名という学生収容規模については、平成7年に単一学科制から複数学科制に移行して以降の本学の基本的経営目標でありましたが、平成23年4月の現代武道学科開設により、入学定員500名という規模目標については取敢えず達成するところとなりました。しかし、国内外の大学の取組みの近時の状況などを概観しても、2千人程度の収容規模は大学運営の安定化に資するものとは到底言えず、一方、高齢かつ人口減少という日本社会において、更なる規模拡大は容易でないことは自明であります。この観点から、国際化の動向、需要と供給のバランスを目指した統合・再編成など、繊維業その他戦後の産業界の生残りに係る先行事例、その他の各種動向を睨みつつ、当面、教育の「質の向上」に取り組んでいくこととし、その前提となる第2回目の外部認証評価受検について、合議制副学長制その他の運営体制の下、遺漏なき対応を図りました。

同時に、学生の就業希望が多い公立学校保健体育科教員その他の現役教員の合格率向上の達成を明確化するとともに、就業後の保健体育科教員としての多面的な能力発揮を図ること等を目的として、就学前児童も含めた幼小児期の健全な発育発達に資する小学校教員などの養成について、体育学部内への新学科増設を企図して構想の検討を進めました。

○ その他、平成25年度の状況について

(法人管理運営)

* 寄付行為施行規則の改正

寄付行為の内部規定である寄付行為施行規則について、平成14年の同規則改正後の私立学校法一部改正に伴う改正内容との整合性等をよりの確に図るべく、一部改正しました。

* 運営体制

[法人]

理事長による仙台大学学長兼務について、平成25年度末で2期6年間という学長就任期間が満了となることから、次期学長に係る所定の選考手続を実施し、阿部芳吉副学長を平成26年度からの新学長に選任しました。

これに伴い、法人部門においては、専務理事体制の解消(総務・財務の常務理事体制は変更なし)、同時に、担当理事交代移行期への対応等として、平成26年度からの役員体制を寄付行為に定める上限の理事数14名(14名以内)および評議員数26名(26名以内)体制とすべく選任手続(含む学長交代に伴う選任区分の変更)を実施しました。

[大学]

合議制副学長を2名体制とするとともに、新設のスポーツ健康科学研究実践機構(教育基本法等に定める大学の地域貢献機能について全学的対応を図るため、旧スポーツ情報マスメディア研究所・生涯学習センター等を統廃合)の長、および大学院研究科長をそれぞれ兼務する体制としました。なお、平成26年度からの理事長の学長職兼務終了に伴い、大学運営の円滑な引継に資するべく次年度より学事顧問(理事長兼務)を設置することとしました。

[高校]

副校長・教頭体制のもと、教育活動については、調理科・介護福祉学科では各学科長が、普通科ではコース毎に担当参与が運営にあたる体制を継続しております。この他、募集業務・進路指導・総務の各部長が同じく指揮命令下校務運営にあっております。

* 財務事項 (学校法人会計基準改正)

学校法人会計基準について、基本的仕組みは維持しつつ外部への説明責任を果たすべく平成27年4月から改正施行されることとなり(知事所轄法人については平成28年4月から)、実施に向けて遺漏なき対応を図るべく、研修会参加その他諸準備を進めました。

* 外部調査等の受検 以下のとおり受検しました。

[法人]

- ・ 公認会計士監査 4月・5月・6月・9月・10月・1月・3月 計9回
- ・ 5月 監事監査受検
- ・ 6月 仙台市人事委員会「平成25年度職種別民間給与実態調査」に対応

[大学] (外部認証評価については既述のとおり)

- ・ 5月 東北厚生局「栄養士養成施設に係る指導調査」に対応
- ・ 10月 日本高等教育評価機構「大学機関別認証評価・実地調査」に対応
- ・ 10月 文科省「部活動指導体制」に関する説明

[高校]

平成26年3月、学校教育法に基づく学校評価に係る外部評価委員会を学識経験者、民間企業、小中学校校長、地域代表者等の外部評価委員と関係職員とにより開催し、生徒・保護者によるカリキュラム・学校行事・各部/生徒会活動、生活・進路指導等に対するアンケート結果、ならびに課題と改善策等に係る自己評価結果を提供し、外部評価委員から各種意見を聴取しました。

* 教職員の質の向上

[教 員]

・ 大学

教育に関して、学内外FD研修会実施および派遣、新任教員スタートアップ支援、シラバス/授業評価アンケートの実施およびフィードバック等を実施しました。また研究に関して、各教員の研究計画相互理解のための学術集会、学外への学術情報発信としてのスポーツシンポジウム等を実施しました。

・ 高校

学内の専任教員研修会、非常勤講師研修会等を継続して実施した他、私立中高連その他の学外研修会派遣等を実施しました。

[事務職員]

学校法人全体の事務職員研修会を継続して実施した他、仙台大学事務職員においては、若手について桜美林大学通信制大学院への修学支援を引続き実施しました。

(教育研究の実施)

[大学] 学校教員以外の各種資格取得状況(「教育の質の向上」のエビデンスの1つ)
体育施設管理士(27)、健康運動実践指導者(4)、福祉レクリエーション・ワーカー(5)、ジュニアスポーツ指導員(15)、キャンプインストラクター(6)、スポーツプログラマー(3)、アシスタントマネジャー(7)、レクリエーション・コーディネーター(8)、NSCA-CPT(2)、健康運動指導士(2)、社会福祉士(1)、CSCS(1)、NR・サプリメントアドバイザー(3)、レクリエーション・インストラクター(24)、障害者スポーツ指導員(3)、社会調査士(2)

[高校]

- ・ 介護福祉士国家試験合格者 15名(内3名仙台大学進学)
- ・ 学校改革のPDCAとして25年度は「実行(do)展開」と捉え、「今こそ出発点」の言葉のもとに、将来構想ビジョンの具現化、定員確保を最重要課題と位置づけての募集活動の新たな展開、新高等学校学習指導要領の完全実施の他、各種活動の在り方の再認識等を具体的な教育活動として実施しました。

(施設・設備整備)

[船岡地区]

・「屋内プール」

東日本大震災により被災した仙台大学屋内プールについて、5月、引渡しを受け「震災復興記念プール」と命名し供用開始しました。25m×8コースの規模で他にダイビング資格取得用プール槽(深さ3m)も整備、さらに太陽光発電パネルを設置しエコ電力システムも利用することとしております。

・「野球場改修」

昭和60年完成の硬式野球場(第2グラウンド内)について、両翼拡幅、ファウルグラウンド拡張による投球練習場(ブルペン)設置、夜間照明増強などの設備整備を実施しました。これは「ベースボール型」球技が小・中学校の体育授業で必修化され、保健体育科教員養成の観点から「ベースボール型スポーツ共同実習演習システム」の導入にも対応するものです。

・「陸上競技場改修」

公認更新時期の平成26年6月に向けて、陸上トラックやフィールドの改修工事および備品類の整備を実施しました。地域貢献活動として、平成25年度「私立大学等改革総合支援事業」のタイプ2区分で選定採択された助成をもとに、地域の小中学生からの陸上競技指導の要請、陸上競技会開催、講習会事業等のための規格適合の用具整備も実施し、スポーツ指導者養成教育の充実を図りました。

・「その他」

ヒューマンバイオキネマティクス定量・解析装置、大型トレッドミル、携帯型高速度カメラ、デジタルプログラム等の整備を実施しました。

[川平地区]

グラウンド整備等の他、ランニングコスト削減の観点から、体育館の照明をLED化しました。

<参考> 新設の「私立大学等改革総合支援事業」対応について

申請した3タイプ全てが選定採択されました。具体的整備内容は次の通りで、いずれも学生教育の質の向上に資するものとなります。

タイプ1(建学の精神を生かした大学教育の質向上)

アクティブラーニング用機器備品(電子黒板システムおよび授業用タブレットPC)整備

タイプ2(特色を発揮し、地域の発展を重層的に支える大学づくり)

陸上競技用備品整備

タイプ3(産業界など多様な主体、国内外の大学と連携した教育研究)

中国青海省との健康関連共同教育研究関連備品(携帯型インボディ・フリーズ超低温槽)整備

(学生募集・入試状況・卒業/進路状況など)

○ 学生生徒募集

[大学]

- ・学科1日体験会 7月実施 3日間延べ人数 323名(生徒 248名、保護者 75名)
- ・オープンキャンパス 8月開催 1,060名

[高校]

- ・教育懇談会 県内の仙台地区、石巻地区、大河原地区、古川地区で開催
- ・私立高等学校合同入試説明会 9月
- ・塾対象入試説明会 10月
- ・オープンスクール 7月 368名 10月 239名

○ 入試状況

[大学] 平成26年度入学定員の約1.2倍の入学者を確保しました。

[高校] 平成25年度募集定員を400名に減じたところ420名を超える入学者を確保したことから、400名規模の募集定員を維持したが、平成26年度募集定員に対して389名の入学者となりました。

○ 卒業/進路状況(平成26年5月1日現在)

[大学]

	進学 (大学院 等)	就 職					未決定 その他
		教 職	事務・営 業	健康産業	公務員	その他	
卒業者数 545名	8名	44名	273名	45名	50名	21名	104名

※ 未決定その他は、教員採用試験、公務員試験再受験(64名)及び就職未決定(40名)

[高校]

・進学状況

大 学		私立短大	専修・各種学校	合 計
国公立	私 立			
1人	80人	8人	71人	160人

・就職状況

	求人企業数	合格者数	備 考
事 務	29	1	
販 売	86	16	
サービ	408	67	
製 造	105	8	
専門技術	17	0	
公務員他	—	5	自衛隊希望者が増加
家事・家業	—	(12)	
合 計	645	97(12)	

内定者数 (97名) / 就職希望者 (109名) = 89.0%

(学生生活)

○ 学生表彰

[大学]

教育ボランティア学生に、毎年度、柴田町、仙台市、岩沼市、大崎市、名取市、大河原町の各教育委員会から感謝状贈呈があり、延べ234名の学生が受贈しました。

[高校]

全国高等学校家庭科食物調理技術検定、全国高等学校家庭科被服製作（洋服）技術検定、トレース実務技能検定、ホームページ作成検定、ワープロ実務検定、ビジネス文書実務検定の各1級取得生徒、宮城県介護員養成研修介護職員基礎研修課程修了生徒、調理師免許取得生徒、および新体カテストA段階合格生徒に毎年度送られる綾子賞（5代校長の遺徳にちなんで同窓会の松操会主催で授与）が、計148名の生徒に授与されました。

○ 部活動など

[大学]

・ 男子サッカー

東北地区大学サッカーリーグ全勝優勝(13年連続30回目)

第62回全日本大学サッカー選手権大会(インカレ) 対中京大学 初戦敗退

・ 女子サッカー

M F加賀選手がユニバーシアード日本代表に選出

M F加賀選手/D F須永選手がサッカー日本女子選抜ミャンマー遠征メンバーに選出

第22回全日本大学女子サッカー選手権大会(インカレ) 対早稲田 初戦敗退

・ 硬式野球

仙台六大学春季新人戦で、2季連続優勝

松本選手が仙台六大学野球秋季リーグ戦で3冠王(打率477・17打点・3本塁打)とMVP

・ 男女体操競技

第67回全日本学生体操競技選手権大会 男子団体総合で2年連続第3位入賞

女子2部リーグ団体総合で優勝

・ 男女ボート競技

男子/外崎選手 U23世界ボート選手権大会日本代表に選出

女子/中川選手 第27回ユニバーシアード競技大会日本代表に選出

・ 男女陸上競技

男子/佐々木選手 第22回夏季ソフィアデフリンピック日本代表に選出

女子/加藤選手 2013年IPC陸上世界選手権大会で銅メダル獲得

・ 男女柔道

第16回全日本女子ジュニア柔道体重別選手権大会・東北地区予選で5階級制覇

南條准教授が全日本女子代表監督に就任

・ 男子バレーボール

第66回全日本男子バレーボール大学選手権大会 対法政大学敗戦 ベスト16

・ 女子バスケットボール

宮城県総合バスケットボール女子選手権 優勝

・ 男女フロアボール

第3回日本学生フロアボール選手権大会(インカレ) 男女アベック準優勝

[高校]

・吹奏楽 第19回日本管楽合奏コンテスト・高等学校A部門出場

・男女バスケットボール

第62回宮城県高等学校総合体育大会 男子/2年連続6度目の優勝 女子/準優勝

平成25年度全国高等学校総合体育大会 男子/第3位

第44回全国高校バスケットボール選抜大会県予選

男子/2年連続7度目の優勝 女子/準優勝

第44回全国高等学校バスケットボール選抜(ウィンターカップ) 男子/2度目の全国制覇

<戦績>						
第2回戦	○	明成	127	—	77	県立宇部工業(山口)
第3回戦	○	明成	88	—	58	美濃加茂(岐阜)
準々決勝	○	明成	81	—	67	八王子高校(東京都)
準決勝	○	明成	108	—	92	藤枝明誠(静岡)
決勝	○	明成	92	—	78	福岡大大濠(福岡)

・男女体操競技

第62回宮城県高等学校総合体育大会 男子/団体優勝8連覇 女子/7年連続団体準優勝

平成25年度全国高等学校総合体育大会 男子/団体7位

・男女陸上競技

第62回宮城県高等学校総合体育大会 男子団体第6位

男子1500m 1位 渡辺選手 3位 板橋選手 男子三段跳び 3位 高木選手

(国際交流)

[大学]

<アジア地域>

・中国

現代武道学科「中国武術」集中授業実施来学(瀋陽師範大学)、受入留学生視察来学(上海体育学院)、共同研究セミナー発表訪問・共同研究協議(青海省体育科学研究所)、国体視察訪問(瀋陽師範大学)、スポーツマネジメント国際会議発表訪問(吉林体育学院)など

・台湾(台東大学)

学長入学式挨拶参加、柔道部学生合宿受入、留学生受入、短期交換学生派遣など

・韓国

交換留学生受入(龍仁大学校)、現代武道学科「海外武道実習」学生派遣(龍仁大学校)、
現代武道学科「韓国伝統武道」集中授業実施来学(韓国国立体育大学校)など

・タイ(シーナカリンウィロート大学)

教育局職員視察来学、交換留学生受入など

・ベトナム(ホーチミン市体育大学)

副学長他来学国際交流協定締結調印など

<欧米地域>

・アメリカ

アスレチック/トレーニング研修派遣(ハワイ大学)、短期交換留学生受入・派遣(カリフォルニア
州立ロングビーチ校)、大学祭学術講演招聘(カリフォルニア州立ロングビーチ校)など

・フィンランド(カヤーニ応用科学大学)

高齢者運動共同研究、交換留学生受入・派遣など

・デンマーク(リレベルト大学・ノアフェンス国民大学)

教員視察来学、交換留学生派遣など

・ベラルーシ(国立体育大学)

交流協定再締結、新体操部研修派遣など

・ドイツ(オルデンプルグ大学)

交換留学生受入など

[高校]

・修学旅行先の一つである台湾・台東で台東大学付属高校と学生交流など

(地域貢献)

[大学]

・みやぎ『夢・復興』ジュニアスポーツパワーアップ事業の実施協力

・2013年東北こども博開催(18千人強の参加)

・地域連携協定の新規締結(角田市・大和町)

・「いきいき学園仙南校」(県)、中体連陸上競技大会(名取市)、柔道指導者研修会(柴田町)、
介護予防事業(柴田町・川崎町・村田町・美里町)、「地域スポーツリーダー講習」(大崎市)、
「こども園運動クラブ」(丸森町)、「健康づくり事業」(女川町)など

・産官学連携(ヨークベニマル・東北リコー・JAなど)

[高校]

- ・調理科 「食の学び」の実践による食環境デザインプロジェクト
- ・宮城県「住みよしみやぎづくり功績賞」受賞(女子バスケットボール部)

(その他涉外)

○ オリンピック

- ・2020年東京オリンピック・パラリンピック招致活動における連携協定締結
- ・ソチ冬季オリンピック 現役学生を含む仙台大学関係者5選手 代表決定
小室希選手(スケルトン女子)
高橋弘篤選手・笹原友希選手(スケルトン男子)
鈴木寛選手・黒岩俊喜選手(ボブスレー)

○ その他

学校法人前身の学園発祥の地「記念碑」(仙台市青葉区)に係る覚書締結(三井不動産 他)

(同窓生の活躍など)

○ スポーツ競技

[大学]

- ・亀山耕平氏 2013世界体操競技選手権 あん馬 金メダル
豊田国際体操競技会 あん馬 優勝
- ・田中美衣氏 2013世界柔道選手権・国別団体戦 金メダル
- ・小室希氏(仙台大職) 全日本スケルトン選手権 5連覇

- ・佐藤若菜氏 第97回日本陸上競技選手権 ハンマー投 第3位
- ・佐藤文哉氏(明成高校卒) bjリーグ仙台 89ERS入団
- ・蜂須賀孝治氏 ベガルタ仙台 『プロA契約』を締結
- ・岩佐義明氏(宮城MAX監督) 河北文化賞を受賞
(車いすバスケットボール日本選手権5連覇)

財務の概要

○ 当年度の決算概要（金額は百万円未満切捨て）

・ 資金収支計算書

資金収支規模（収入計）は7, 228百万円となり前年度比3百万円の減、内借入金収入は170百万円で前年度比225百万円の減となりました。次年度繰越支払資金は810百万円となり前年度比58百万円減となりました。

・ 消費収支計算書

帰属収入は4, 764百万円で前年度比349百万円の増、消費支出は4, 324百万円で81百万円の減、帰属収支差額は439百万円で前年度比430百万円の増となりました。これは、国庫補助金の増減が最大要因となっております。繰越消費支出超過額は2, 803百万円となり前年度比112百万円の超過減となりました。

・ 貸借対照表

資産の部合計は18, 379百万円となり前年度比501百万円の増となりました。負債の部のうち長期・短期借入金の合計は1, 067百万円となり前年度比59百万円の増となりました。

なお本学校法人は、留意すべき財務比率として、帰属収支差額比率、流動比率、人件費依存率に着目しており、その推移は、末尾に添付しております。

○ 東日本大震災被災後の施設整備借入状況

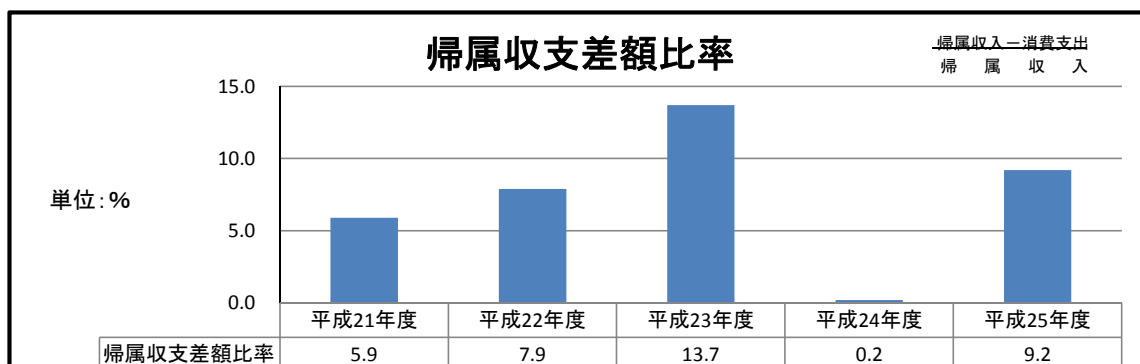
(単位百万円)

年度	大学	高校	合計
23	200	200*①	400
24	295	100	395
25		170*②	170
累計	495	470	965

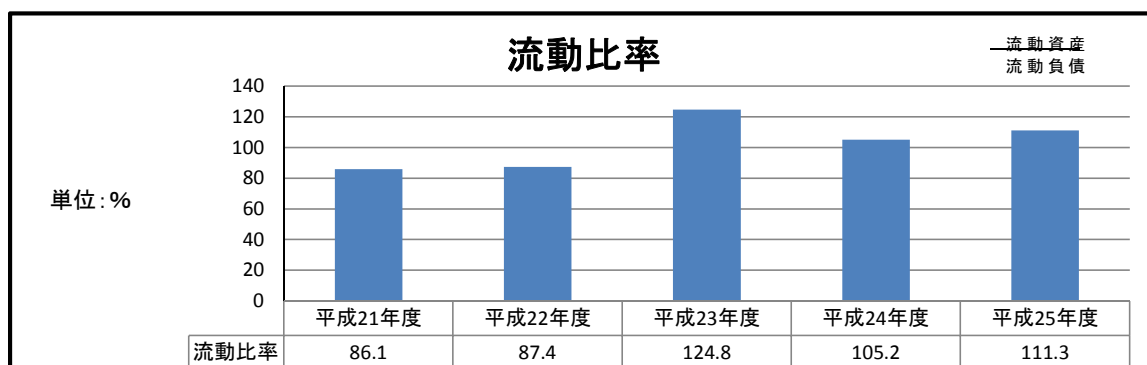
*① 内100は運転資金借入

*② 内70は運転資金借入

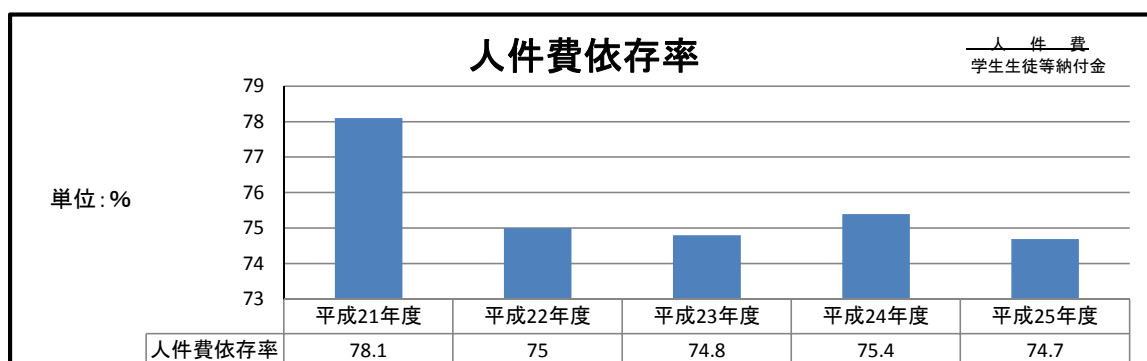
以上



設備投資計画の無い状態で、10%以上期待。



銀行比率ともいわれ、200%以上あれば信用度は高い。



人件費は、学生生徒等納付金の範囲内に収まっていることが望ましい。

監査報告書

平成26年5月21日

学校法人朴沢学園
理事会 御中

学校法人朴沢学園

監事

岩崎 悌



監事

恵美 文雄



私たちは、学校法人朴沢学園の監事として、私立学校法第37条第3項に基づいて、同学園の平成25年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）における財産目録および計算書類（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表及び附属明細表）を含め、学校法人の業務並びに財産の状況について監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会その他重要な会議に出席するほか理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続を実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上